

幼 兒 教 育

第二十二卷
第十二號

大正十一年十二月十五日發行

子供の經濟心の養ひ方

東京女高師教授 倉 橋 惣 三

一口に經濟と云てもそれは一面から云へば、無駄には使はないと云ふ事と他の一面から云へば、よく使はうと云ふ事の二つになります。無駄に使はないと云ふのは即ち消極的の方面であり、よく使うと云ふのは積極的の方面であります。授昔から我國の家庭におきまして子供に養はれて來た經濟心をどちらかで見ますと主として前者即ち消極的の方面であります。半紙を切て遊んで居る子に向て「一枚使てはいけない、今は半分にして後半分はとつてお置きなさい」と云ひおばさんから一圓のお小遣をもらつた時に皆使はないで其内五十錢はお預りにしませうと云て居りました。經濟と云ふ事が消極的の方面で行はれ

ればそれで良いと云ふのならこれまでの儘でよいのであります。が積極消極の兩方面を備へたものとして然らば積極的の方面はどう養はれて來たかといふ事は問題であります。今儉約した半紙半枚なり。紐三寸なり後役立つ(積極)様になるまでには可成時間のかかる事でありませう。今とつて置いた油紙半分が半年先へ行て役に立つ事もありませうし一年後になつて役に立つ事もありません。消極的の經濟と積極的の經濟とが時間の隔りなく續いて起ると云ふ事は事實として滅多にない事でありませう。今之を取て置けばいつかは役に立つ、五年先か十年先かしらないが兎に角いつか役立つ事を成人は考へる事が出來ます。が子供には長い時の經過を考へる事は出來ませむ。

今日の前で「しまつて置く事が良い事だ」と云はれるからするけれども子供にはそれが何時役に立つと云ふ事までは考へられませんが。節約して、しまつて置いた物なりお金なりが思ひ掛なく役に立た時成人なら「あの時我慢して節約しておいてよかつた」と云ふ事が五年たつた後でも解りませんが子供の場合はさうではありません。或人は過去、將來、といふ事が子供にも解り得ると申しますが事實それはむづかしい事でもあります。節約した時の我慢と役に立た結果とは少しも子供には關係がありません。それ故目の前丈消極的に節約させても、子供にとつては詰らないしかたであります。が今日一般の家庭なり社會なりで子供に對して養はるゝ節約の方法はすべてかういふしかたであります。

○ 節約は經濟事實であつて、それは合理的な生活であります。合理的な生活である節約といふ事を算盤ではおけるこの節約心を子供に與へるのにこれまでは善惡の道德問題を持ち出しました。消極的に節約し積極的に役立たせる節約の生活は道德上善なるが故にすべきであると云て合理的な生活を無理に道德へ結

びつけて養はふとする方法では、いつまでたつても、經濟心が合理的になりませむ。

經濟心は合理的なものであると云ふ事を根本にして考へて見ますと、此經濟心即ち節約を子供に養ひますには、其子供一人々々の年齢に従て其年齢に相當した或時間の後に於て、必ず積極的の經驗を伴はせると云ふ事が行はれなければなりません。或場合にはわざわざ其機會を作つても經驗させる必要がありません。半紙半分を使ひ度いのを我慢してとつて置いたら其我慢した氣持の残つてゐる中に、とつて置いた半紙半分の役に立つ様實施する機會をあたへて消極的の節約が積極的の役に立つに至るまでの一つの連絡ある生活を子供に經驗さすべきであります。

これは消極積極の兩者をそなへた節約の方程式の様なものであります。銀行のお勧めに毎日いくらか貯へれば五〇年の後にはどれ丈になると云ふ事がありますが、それに對して吾々ですら五十年先きもの事になるとキチツと頭にはあひませむ。「お前のお金は銀行にいくら／＼積んであつて毎日殖えて行くんだよ」と云て聞かしても、銀行がどういふ制度だかどんなにお金かたまるのか、將來といふ言葉も時

日も知らないあの子供の心には決してピタツとは來るものでありません。我慢して半分だけ残した五十錢だつたら、その我慢した氣持のぬけないうちに残りの五十錢を積極的に使はせる方がよいのであります。「あゝよかつた、さつき使はないで良い事をした」と子供が感じて、はじめて節約が子供の心に徹底したわけであります。「ほんとうに良かつた」と思ふ積極的方法の結果を味はせないでは、節約は意義をなしません。這入た金をどん／＼銀行へ預けてしまふのは節約の本質ではありません。それは「する」です。

○
ためるといふ事は子供の好きな事でありませぬ。外を遊んで歸て來た子を夜着がへをさせる時、その袂から、ポケットから、腰あげから、拾ひためたどんぐりや木の葉の落ちることは我々の常に知てゐる處であります。しかし枕下に竝べて眠たどんぐりや木の葉があくる朝になつて取りすてゝあつても、それを惜しいとは思ひませぬ。時には置いといた事すら忘れてゐることもあります。これは決して貯蓄節約の意味ではありません。「ためる」といふ事は子供の

心のくせであります。「ためる」といふ事をれ自身ではねうちはありません。「ためる」と云ふ子供の心持はゴウツクバリでもなければ又節約だと云て賞讃すべきものでもありません、そこらに木が生え石が轉がつてゐるのと同じ事柄であります。この心を利用して來た時はじめてそれがよくなるのであります。

「ためる」と云ふ本能的な心を有意に使ふと云ふ事と節約といふ事とは全く違ひます。

節約はそれ自身大變良い事であると教科書などには説かれてゐる様であります、賞讃措かざる處でもなく、と申して吝嗇だと云て打消すべきでもありません、これはありのまゝな人の心であります。これまで節約は道徳上の善として奨勵されてまゐりましたが事實の經驗からみますと始があつて終のない状態であります。封建の昔に或る人が大變な困難をきりぬけ苦心して勤勉して遂に大金を貯めたと云ふ、道徳上丈の節約は、現代に於ては何もならない事でありませぬ。

節約は道徳上の事ではありません。合理的生活であります、故に必ず其結果に到達しなければ一節約した金がどう有益に使はるゝかと云ふのでなければ

—無意義であります。

それで子供に節約の心を養ふのに必ず結果を味はせよ申しますのはこの意義から押した事で合理的生活のはじめ丈與へて結果を顧ないと云ふ事は片手落ちの事になります。

○ なほも一つ外の事は、人間の心持ちには合理的にする外に、何だか其物自身が、さう亂暴には使へない云ふ様な氣持があります。すべての物を「勿體ない、勿體ない」と云ふあの氣持であります。「お米が勿體ない」と云ふ、それは實物を尊重すると云ふ一種の宗教味をおびた事になります。又それが迷信的の方になつて「御飯をこぼすと目がつぶれる」と申しますがそれは子供の恐怖心を用ひた方法であります。これは我國在來の節約の方法としては屢々つかはれて居りました。しかし「目がつぶれる」と云はれてもほんどうにさうなるわけではありません。つぶれるよと云てきかしたお婆さんの方がよくみえない様なことであります。この様な恐怖を本とした自制は人間教育の根本の道ではありません。

子供が自然に持てゐる本能としての恐怖はしかた

がありませんが、恐怖心を利用すると云ふ事は、つまらない事でありませぬ。理屈でないものには方法は適用されませぬ。感じは方法には行きませぬ、また云ひきかすのでも爲て見せるのでもありません。我々自らが、あらゆる自然物に對する、あらゆる愛惜の感じそのものであります。

子供に經濟心をどう養ふかと云ふ時に私はこの二つの方法から行かうと思ひます。

生活の行爲は生活方法に於ける合理的事實で出来ませんが、も一歩深いものはそれ丈では出来ませぬ。子供の教育といふ大きい點から見ますと、節約など云ふ事は小さな部分にすぎませぬ。節約して暮し得ても暮し得なくても大した問題ではありません、それは所謂得な人、と損な人、との違ひであります。

人間の價値の問題から云へば大した事ではありませぬ。子供の節約心を養ふ時には、節約を通して、ある大きいものを與へるといふのではありますまいか。節約を小さい事實にとつて我子を小さく育てるか、その事實を通じて我子を大きく育てるか云ふ事は教育の問題でありますが節約を通してある大きな人間としての教育をする云ふ意味から私はたゞ

合理的事實の生活だけではすまないと思ひます、も一つ「ありがたい」と云ふ、あの感じが大切だと思ひます。

○ 短い時間に、結論だけをのべた様なものでありますが、要するに、子供に經濟心を養ふ方法として一つには合理的事實に従て儉約といふ消極的事實の後に必ず「役に立つ」と云ふ積極的結果を伴はずと云ふ事。然しそれ丈でなくも一つこの經濟心を通してあらゆる物、それ自らに對しての尊重、愛惜の心「ありがたい、勿體ない」と云ふ感じを養ふ事が、人間の教育といふ大きい意味からして大切な事であると思ふのであります。(講演筆記大要)

さびしさにたへたる人の

またもあれな

庵なららむ冬の山さ

(山家集より)

○ 東京市校外兒童保護會の活動

去月二十七日から五日間を、同會では「兒童保護宣傳デー」として各所に有益なる講演會をひらき、ひろく東京の子供一般の爲に保護宣傳の聲を大きくされました。

街頭では自働車の戒笛におびやかされ、小路の角では自轉車におどろかされる不幸な都會兒童は唯一のがれ場である小公園でさへも、中、青年に防げられて居るのを、屢々見うけます。

文化の恩澤をあべこべに受けた状態にある、一般都會兒童の爲めかゝる宣傳は實に大なる力であり喜びであると思ひます。